

# 《第5回全体学習》

同和問題〔道徳〕学習指導案

1993年10月28日〔木〕5校時

3年E組 授業者 榎村 光世

1、主題 人間としての生き方を求めて

2、主題設定の理由

板野中学校に新任で赴任して5年目を迎える今年、来し方を振り返ってみると、生徒の顔振れもも年々変わっていったが、私自身1年目とは随分と変わった。板野中学校で学んだものとして、いろいろとあげることができるが、板野中学校での同和問題学習を通して得たものが、現在の私自身に大きく影響している。

3年目に初めて1年生を担当し、その年に郡同和教育研究大会があった。初めて担任した年に全クラス公開の郡同研の経験は、私にとって大事な財産となった。連日のように繰り返された生徒や同僚との同和問題についての話し合いが、私を変えるきっかけになったのだと気付いたのは、4年目を迎える少し前のことだった。ある同僚と同和問題について話し合っていたときだった。その同僚に「ほんまに変わったなあ」と言われ、初めて自分の変化に気付いたのであった。担任をする以前の私は「英語を教えるためにおる。同和問題学習は必要なんだろうか。」と考えているような人間であった。今思えば、あの頃の私は何も知らず、何も気付かずに生きていた人間だったのだ。そんな私を同和問題に面と向かわせ、人とのつながりのありがたさに目覚めさせてくれた生徒たちや同僚に、今感謝せずにはおられない。

※

現在、生活を共にしている生徒たちの成長を入学時から見続け、最初の岐路に立つ生徒たち。もう4ヶ月後には板野中学校を巣立っていく生徒達。彼らは、私にとっては「掌中の珠」のような存在である。

4月当初、3年生の心には、受験に対する不安と最上級生としての自覚、新生活への期待、そして1年生の後半から続けてきた学年での『全体学習』があった。5月、今年度最初の全体学習で、これまでの全体学習では触れられたことのなかった学習会のことが中心に進行し、学習会参加者の涙ながらの宣言が続いていった。発表したものも発表しなかったものも、全体学習が終わった後も差別解消への熱い思いを胸が痛くなるほど感じていた。

\*

私は初め、ホントのことを言うと、自分の意見なんか、思いなんか言うつもりではありませんでした。でも、近くに座っていたAさんが、勇気を出して、今までの自分について、今、感じている、自分の思いについて語っているのを聞いていて、やっとな、言おうという気持ちになりました。Aさんが学習会について言う前にも、BさんやCさんが言っているのを聞いていて、『自分の思いをみんなに聞いてもらいたいな、今、手を挙げて言いたい。』とは思っていたけど、なかなか手が挙がりませんでした。たぶん怖かったんだと思います。BさんやCさんは楽しみにしていて、いつも学習会に行っている子たちが、私が学習会に行くようにしたい。行きたい。といったところで、迷惑がられるという気持ちがあったんです。だけど、『それは違う』と思えたのは、自分の思いを言ったあとからです。みんなの意見を次々に聴いていて、信じられないことはない。自分が積極的に、学習会にも参加し、同和問題学習にも参加することによって、だんだん人が、友達が、仲間が信じられるようになってくるのだと思う。何もかも結局は全部、自分次第なのだ。それが、今日、心が痛くなるほど分かった。

\*

私は今日の全体学習はすごく苦しいものがあった。それは私の友達Dさんが自分の思っている、自分自身のことを言ってくれた。Dさんだけではない。学習会に行っている半分以上の人が

言ってくれた。私は、何も言えなかった。何度も言おうと思ったけど、言えなかった。手が動かなく、口も堅くなっていて、自分が学習会の手紙をもらっていることが言えなかった。それに、言えば泣くかもしれない。この全体学習が終われば、みんなが変わるかもしれないと思った。それが怖くて、私は何も言えなかった。すごくつらい！自分の気持ちが言えなかったことがすごくつらい！Dの涙を見たとき、Dってすごく大きな人間になったと私は思いました。DさんやFさんのようになりたい。自分も学習会に関係があると言いたかった。けど、もう、遅い。そう思ったら、すごく苦しいです。心の中では私の涙はもう支えれない気持ちでした。私はみんなに一言謝っておきたい、学習会に行っているみんなに。弱虫でごめん！みんなと同じ気持ちだったのに、言えなくてごめん。今度は絶対自分が学習会に関係があることを思い切って言えればと思います。今日のような苦しみを二度と味わわないためにも、ぜったい今度の全体学習は発表したいです。

全体学習を通して、仲間の発言を聴いて、生徒達は様々に考え、思い、変わっていった。この他にも、この全体学習を終えて、「自分は変わった」「発表はできなかったが、自分は自分の内部でいま変わりつつある」と言う感想を述べたものは多かった。

このような意識の盛り上がりの中、第2回目の全体学習が『意識の芽生え』を学習するにあたり、自分と部落差別との出会い、その時の自分の思いや意識を振り返ってみることに始まった。そしてそれぞれが自分の意識の中を正直に振り返り、その時の自分と今の自分とを綴っていった。その中に、何度読み返してもどうしても繰り返し読まずにおれないF子の文章があった。2階から3階にいたる階段の右の壁に、何年か前の卒業生が製作した打ち出しの解放文化展の出品作品がかかっている。その作品は、丸岡忠雄さんの『ふるさと』という詩とその情景を描いたものである。私自身、その詩を立ち止まって読むこともあるが、F子は、初めて自分が部落問題と出会ったときの苦しみとともにその『ふるさと』の詩についての自分の思いを書き綴ってきたのだった。

\*

胸を張ってふるさとの名前が言えるようになりたい。いま、3階の階段のところにある『ふるさと』という詩を私はよく読む。その文は何度読んでも、私はあきず、読めば読むほど私の心をゆらす文でもあります。私はみんなに自分のふるさとを言ったことがありません。でも、今は自分のふるさとを思い切って言えると思います。私は今から生きていく中で何が待っているか、まだわかりません。でも、私は好きな人と結婚したり好きな友達もたくさん作り、ごくふつうの生活をしていけることを願っています。そして、みんなの心がひとつになることを願っています。そして、みんなの心がひとつになることを願っています。

F子は学年の意見発表会にでることになった。F子の両親もF子を励ましてくれ、本人も明るく「出る」と言い、両親の前で何度か発表の練習もしていたのだが、発表会当日の朝、「今、苦しんでいる心を思い、彼女の今までの想いを思い、私の心臓は何者かにわしづかみにされたような状態で、彼女自身の決定を待った。F子は1年生の時にも私が担任した生徒で、その1年間、ともに同和問題学習に取り組んでいく中で、F子は自分は部落に生まれたのだということを再認識し、同和問題学習に励む反面、「もう放っておいてほしい」という思いも胸に抱いていた生徒だったのだ。最終的にF子は自分で発表することを選んだが、彼女の発表は涙ながらの発表で、みんな、胸がいっぱいになっていた。いつも明るく振る舞っているF子の隠されていた想いにふれ、部落差別への怒りを新たにしたものも少なくなかった。そして、部落差別解消に向けて仲間と共に生きていこうという意志を一層強いものにしていった。

\*

残った時間にしたみんなの発表を聞いて、心が熱くなって、からだがなにかに震え立って、涙が出そうになりました。全体学習や今日の意見発表などをするごとに、本当に熱くなるのが増えます。本当に3年の終わりには3年生全員が強いきずなでつながれると思います。

そしてF子は意見発表することによって、彼女自身の中にあった、ひとつの大きな峠を越えた。発表後、F子はこれからの事に不安を抱きながらも『ありがとう!』と書いてきた。

\*

私は今日、初めて自分が部落の人間であることをみんなにいった。泣きたくはなかったけれど、心にかみ上げてくるものがあって、心では支えきれないものがあつた。そんなことを思っていたら、目に涙がたまり自然と涙があふれ、吉成先生の言葉も私の心をゆるがした。

私の本当の気持ちは、この発表が終わったらみんなにどう話しかけていいかわからなかった。たよりになるのは先生だけだと思っていた。でも、発表した後、みんなから話しかけてくれたのが、私が生きていく中で、絶対忘れられない体験になつたように思います。私は先生やみんなに、ありがとうと心からいいたい。私の気持ちをわかってくれたし、立ち向かう仲間になつてくれたことに、すごく感謝しています。これからはつらいこと悲しいこともあるけど、この仲間で差別をなくしていけたらと思っています。本当にみんな、ありがとう!!

熱い思いの中で、第3回の全体学習を経て、長い夏期休暇に入った。休暇があけるとすぐ台風の間合をぬって遠足があり、その後、3年生にとっては最後の板中祭をひかえてあわただしく日々が過ぎていった。

第4回目の全体学習『私の目をみて!』を学習して、私自身愕然としたことがあつた。3Eの生徒達は、しっかりしているがおとなしい静かな子たちではあつた。しかし、資料を読んでの自分の感想すら語ろうとしないのである。1学期の頃の3Eの生徒達と同じ生徒達とは思えないような光景であつた。おそらくこれは、長い夏季休暇とあわただしい板中祭の準備のためだけでなく、私自身の考え方の変化と、その変化ゆえの私自身の戸惑いのせいであると思う。また、生徒たちは、自分から熱くなつていったのではなく、全体学習という雰囲気の中にあつて熱くなつていたのだとも思う。彼らに芽生えた部落差別解消への熱い思いを自分の中でどう燃やし続けられるかが、彼らに、また、私に問われていることだと思う。

私はこの板野中学校で、はじめて「仲間」や「きずな」の大切さに気付いた。そして、これを生徒たちに語つてきた。それは、そう確信してきたから語れたことだ。人間の意識は変わつていく。4回の全体学習を経るかで、また、夏期休暇に異文化に触れ、また、彼らの生活への自立した姿勢に触れるなかで、「仲間」や「きずな」を語ることは私にとって苦しいことになつてきた。人間は社会的な動物で、社会や人とのかかわりを断つて生活することはできない。その中で人と人との結びつきは、人間の生活を左右してしまうものでもある。では、仲間意識を持ち、きずなを深めていくことだけが人間社会で暮らすことなのか、また、差別に立ち向かつていくことなのか。発表することによってでしか、「仲間」や「きずな」は形作ることができないのだろうか。と、私は思い始めた。「仲間」や「きずな」は、自分が胸を張つてしっかり立つための背骨のようなものである。しかし、ただ、仲間やきずながあるというだけでは、自分の「生」は満足なものとはならないのではないだろうか。「自分」というものをもっと大事にし、もっと自分自身に力をつけ、そうすることによって部落差別解消への力強い取り組みができるようになるのではないだろうか。

本資料『ゴンタこそがたたかいを』では、部落差別ゆえの貧しさにあえぎ、成長するにつれ、その苦悶、怒りのやり場の無さに、自分と社会とを見失つていた主人公が、自分が本当に闘わねばならないのは人との闘いではなく、自分や部落差別との闘いであると気付く、迷いなく部落差別解消のために歩み始めた軌跡を描いている。また、本資料で描かれているのは、この主人公が部落差別によって失われた「自分」を再び勝ち取るまでの、闘いの軌跡でもある。

よく「人」という字は一人のひと、もう一人の人がお互いにもたれあい、支え合つているのだ、というのを耳にする。確かに、仲間、真の友、心友は、まさかの時にはきつと支えてくれる。が、支えられるばかりではなく、支えることもできなければ、「人」にはなれなれないのだ。「100人の人がいて、その中の99人が走つても、自分がたった一人残されても走らない」強さを持ってもらいたい。自分が正しいことだと信じたことのために、一人でも正しいことが主張できる強い意志を持ってもらいたい。4ヶ月後にはこの板中の仲間と離れ、巣立っていく生徒たちにとつ

て、これからの世界は今までとは異なる世界であるかもしれない。本資料を学習することで、自分たちが今まで全体学習を通して育ててきたものを無残な姿に変えられないように、自分を強く持ってもらいたい。なにかあるとすぐ壊れてしまいそうになる、近くに仲間がいないと弱気になってしまうような、自分の弱い心に負けないでほしい。周りの意見や見かけに惑わされず、物事の本質をしっかり見てほしい。胸を張って、堂々と自分の足で大地を踏みしめて、立って、歩いてほしい。以上のような願いのもとに本主題を設定した。この願いは、今、私の目の前にいる生徒たちだけでなく、学校に1ヶ月近く来られないでいるG男に届けられたいと思う。

### 3、ねらい

物事の本質を見誤ることなく、周囲に惑わされず、「自分」というものをしっかり持って、差別解消に向けて、胸を張って真実を求めて力強く生きていこうとする意欲を養う。

### 4、視点 自主・創造

### 5、指導計画

#### 〔1〕これまでの学習

- ・ 道徳 『母の願い』〔全同教福岡大会〕・・・2時間
- ・ 第1回全体学習 『母の願い』〔全同教福岡大会〕・・・2時間
- ・ 道徳 『自分以下を求める心』〔佐藤文彦〕・・・2時間
- ・ 第2回全体学習 『自分以下を求める心』〔佐藤文彦〕・・・2時間
- ・ 道徳 『意識の芽生え』〔丸岡忠雄〕・・・2時間
- ・ 第3回全体学習 『意識の芽生え』〔丸岡忠雄〕・・・2時間
- ・ 道徳 『私の目をみて!』〔土方鉄〕・・・2時間
- ・ 第4回全体学習 『私の目をみて!』〔土方鉄〕・・・2時間

#### 〔2〕本時の学習

- ・ 道徳 『ゴンタこそがたたかいを』〔音野修平〕・・・2時間
- ・ 第5回全体学習 『ゴンタこそがたたかいを』〔音野修平〕・・・2時間

#### 〔3〕これからの学習

- ・ 道徳 『Y子は獅子になった』〔岡本顕史郎〕・・・2時間

### 6、本時の目標

#### 〔1〕目標

自分にとって人間らしい生き方とはどういうものであるのか、また、主人公の生き様を通して自分と同和問題とのかかわりを考え、差別解消に向けて自分の力で立って歩いていこうとする態度を育てる。

#### 〔2〕展開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紆余曲折を経て教師になろうと頑張っている主人公の生き様を考える。</li> <li>・ 主人公の生き様を通して、自分にとって人間らしい生き方とはどういう事であるのか考える。</li> <li>・ 自分にとって同和問題学習とは何であるのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何のために教師になろうとしているのかをふまえておく。</li> <li>・ 社会のなかで生きていく自分、仲間と共に生きていく自分という立場から考えさせる。</li> <li>・ 今までの全体学習を振り返っておく。</li> </ul>

# ゴンタこそがたたかいを

・・・部落の青年がたどりついたところ・・・

## 生いたち

ぼくは、1955（昭和30）年9月21日、大阪府H市M地区の被差別部落に生まれた。母は、2人の男の子を連れて父と再婚していた。したがって義理の兄をいれれば三男だが、音野の戸籍上は長男である。下に妹と弟が一人ずついる。

父は、当時、大工をしていた。父は、小学校1年生の途中で学校をやめたという。だからまったくの無学といってよい。そういうこともあって、ぼくの小さい頃は、とてもぼくに期待していたように思う。よく「おのれの名前を書いてみい」といわれ、書かされた。いま思えば、学校へ行けなかった父の唯一の教育だったのである。そういう父の期待をになって、近くの寺がやっていた保育園に行くことになったが、同じ村の仲間にいじめられ、それがいやでやめてしまった。

1961（昭和36）年、H小学校に入学した。義理の兄2人をいれて7人の家族が、父の仕事一本にたよってくらしていたのだから、みじめな生活だった。

ぼくは、2年生以後、宿題をしたことがない。落ち着いて勉強できる家庭でなかったこともあるが、鉛筆すらない生活だったのである。機械でけずった鉛筆を、かっこいい筆箱にずらっとならべている友達の間、こんなぼくが座っていた。

ぼくは「準援」（準要保護児童）に指定された。それもまたいやなものであった。

教師は、「あとで職員室へこい」とだけいうし、何ごとかと思っただけで、ほかにも呼ばれた連中が大勢来ている。M地区の貧しい子が多いというのは、ぼくには直感でわかる。袋にはいった学用品をもらって、教室に帰らねばならない。友達から、茶化したような羨望の声をかけられるのがたまらなくいやだった。あばれ者だったぼくは、ほかのことだったら、むなぐらのひとつもつかまえてだまらせたのに、こんなときは、ゴソゴソと逃げるように帰った。帰り道のなんともいえない暗い気持ちを、級友たちはわかってくれていたのだろうか。

決定的にみんなとちがう道を歩みはじめたのは、4年生からであった。当時父は、ブロック工として独立しており、人手がほしかった。そのため、夏休みの1日ぼくを連れて出たところ、ぼくは予想以上に父の仕事に役立ったのである。それ以後父は、ぼくに学校へ行けとはいわなくなり、仕事のあるときは必ずぼくをつれて出るようになった。学校へは、父に仕事のない雨の日しか行けなくなった。勉強は、ますますわからなくなった。しかし、ぼくにとって学校は、きつい肉体労働から解放される唯一の場所となっていたと同時に、ぼくが学校で羽根をのばせばのばすほど、教師やそのとりまきの子どもたちにとって、ぼくはますます「問題児」となったのである。

宿題をやっけていかないぼくは、その時間中いつも廊下に立たされた。しかも授業がすめば、立たされて入れてもらえなかった教室の罰掃除である。外で立っていても、毎日のことになるとつらい。つい廊下を走りまわり仲間といっしょに逃げることになる。教室にいても奇声をあげ、ケンカをしまわる。

6年生のとき、はじめて物を盗んだ。保健室の冷蔵庫にはいていたドリンク剤である。テレビのコマーシャルでは見るが、どんなものか飲んだことがなかったし、つまみ食いをしてみたのである。教室にいてもおこられるばかりでおもしろくないぼくは、腹が痛いといって保健室へ行き、養護の先生の目をぬすんで「つまみ飲み」を2回ほどやった。4年生のときから働かされるぼくの家生活。仕事からドロまみれになり、ポロ布のようにつかれた身体をひきずって帰る道で出会う友達の目。そんな状況がぼくをより卑屈にしていった。

## 中学生時代

小学校6年間を形式的に卒業し、T中学校に入学した。

この時分、父は仕事をあまりしなくなり、魚釣りなど遊びに熱中しはじめた。もちろん生活は苦しくなり、母の1日400円にしかならない内職が唯一の収入の道となった。だが皮肉にもそのことによって、ぼくは毎日学校へ行けるようになった。

バスケットボールのクラブに熱中した。上背があるうえに、労働できたえた体力がある。1年生ですでにキャプテンになった。自分の全存在をバスケットにうちこみ、教師からは、よくなったといわれたが、生活の基盤は変わっていないのだから、本当によくなったのではなかった。

音楽の時間、ハーモニカやフエを忘れたといって立たされる。忘れっぱなしなのだから、家がないのだと気づいてくれてもよさそうなのに、教師は根気よく立たせ、運動場を走らせる。ハーモニカひとつ買えない生活の恥（当時のぼくにとっては恥としか考えられない）をさらさせたかのように。

弁当の時間、みんなは本の形をした弁当やプラスチックの弁当に、美しくかざりたてられたごちそうを食う。ぼくの弁当は、メシだけしかはっていない、あちこちへっこんでぶざまなかつこうをしている。弁当の時間は、いたたまれぬ思いであった。ぼくのとった方法は、母がつくってくれた弁当をすて、人の弁当を食うことだった。すてるのも、誰にも見られないところをさがし、こっそりすてなければならぬ。友達だって、いつもいつも弁当をくれるわけではないから、ときには、おどしたり、かすめとったりせねばならない。

この時分から食肉はブームとなり、精肉関係の仕事をしている家はいそがしいが金まわりはよくなってきた。共働きの親のかわりに、1日1000円、2000円の金が子どもをお守りする風潮が出ていたのである。ぼくの家はそんな家とは関係なかったため、同じ部落の子どもでありながら最低辺の貧しい生活である。ぼくの自尊心は、バスケットによってかろうじてささえられていたといつてよい。

そんな中学の2年生のときに、二つの大きな事件がおこった。

ひとつは、父がまた大きな仕事をたのまれたため、ふたたび学校を休まねばならなくなったことである。家のことを考えると、ぼくが手伝わざるをえなかった。2年生の夏休み、ぼくはバスケットクラブを退部した。それまでも仕事のあるときは、クラブがすんでつかれたからだで手伝いにかけていた。クラブ活動を続けるためには、他の子よりも大きな障害をのりこえていたつもりだ。勉強はわからなかったし、そんなことで自分を確かめるしかなかったのである。しかし、それさえもかなわなかったのである。

もうひとつのぼくにとっての大きな事件というのは、二番目の兄が結婚差別にあったことである。ある娘さんにつきあって結婚の申し込みをしたところ、M地区に住んでいるということから「どこの馬の骨ともわからんものにやれない」と、ことわられた。兄のショックも大きかっただろうが、ぼくにとっても大きな衝撃であった。M地区が差別されていることはそれとなく知っていたが、そのことよりも、貧しさによる同じむらのなかでの劣等感の方が大きかった。同盟M支部はあったが、兄のできごとをいっていくなど思いつかず、ぼくにできたことは、おりから学校で「同和」教育が盛んになっていたこともあって、担任の教師に相談することであった。この事件は差別されればなしでおわったが、これを契機に、ぼくに部落民としての意識が芽ばえたといえる。

部落民としての意識は芽ばえたが、社会的立場の自覚には結びつかない。むしろ、差別からのがれ、苦しく展望のない生活に屈して、ますます暴れぶりはひどくなっていった。

## ぼくの目覚め

3年の3学期、ぼくの暴れ方は極限に達した。3階の教室からつくえやいすを投げ、こわしてしまう。学校の窓ガラスをわってまわる。柔道部へなぐりこみをかけ、とめにきた先生までなぐりとばすなど。

だが、こんな調子で授業さえさせない状況にいたって、はじめて他の子から不満が出はじめた。おりから配布された『にんげん』の集中学習のときである。「なんで先生は音野だけにやさしくするのか。ぼくらに対してきびしいのに、おかしい」と担任がつるしあげられかけたのである。

ぼくは思わず前へとび出して、半泣きで自分の歩んだ道をしゃべりはじめていた。これまでも、ホームルームでは、よほどしゃべろうかと思う場面もあったが、前へ出ると、私語をかわしたり、内職にはげんだりする子を見て、しゃべる気をなくしていた。だけど、担任の先生はぼくを扱いかねてはいたが、いつもぼくのことを考えてくれていたことはわかっていたし、感謝の気持ちもあった。ぼくが問題にされず、先生がやられかけているということが、ぼくを動かしたようにも思う。

みんなは、ぼくの部落民宣言を静かに聞き、感想文を書いてくれた。それには、ぼくの立場になって考えようとするものが多かったうえに、音野を通りこして担任を追求することの差別をわかってくれたものもあった。

ぼくは、中学2年のときにできた「友の会」にはいっていた。だから学級で『にんげん』を勉強していて、問題が出れば、教えられたとおりに説明することはぼくにもできた。しかしこんなことは、教条であり理屈にすぎない。自分のものになっていないために説得力がない。ところが、今度のぼくの訴えは、ぼく自身にとっていわば革命だったと思うし、学級の仲間をぼくの立場に立って考えさせることができたのである。

それ以後、「〇月〇日、部落問題学習をやるから集まれ」などというよびかけが、教室の黒板に書かれるまでに学級の雰囲気は変わった。

卒業式は、そういう盛り上がりのなかでおこなわれた。高校へ行きたい気持ちはあったが、あきらめざるを得なかったぼくにとって、最後の卒業式であった。

## 荒れるころ

中学3年のとき、つまらぬことから保健室で暴れまわった。ある先生にだきとめられ、いろいろ話しあっているうちに、なんのために自分がこんなしょうもないことを続けているのか、荒れる自分が見じめになり、その先生の胸にふせて泣いてしまったことがある。

このときの気持ちと、教師をなぐりつけていたときの気持ちは、けっして別ではなかった。なんともいえない絶望感につき動かされて教師をなぐる心の苦痛は、いまでもそっくり胸に思い出すことができる。部落差別の結果、弁当ひとつ、筆記用具ひとつとってみてもみんなより劣っており、そのことが勉強する気をなくさせ、受験体制のなかで生きがいをなくしてしまった。そんなほうが、教師の意識のなかに自分の位置をたしかめようとすれば、学校教育の差別的体制などということがわからなかったため、教師や仲間を困らせるという手段しかとれなかったのである。しかも、教師をはじめみんなを困らせれば困らせるほど、ぼく自身の心の苦痛はますますエスカレートし、どうにもしようがなくなっていく。

ついこの間まで机をならべていた友達が、制服を着、カバンをもって学校から帰ってくるころに、ヤクザっぽい背広を着て、どこへ行くあてもなく、うろつきに出かけるぼくがすれちがう……。このどうしょうもない状態をくいとめてくれたのは、同盟支部の先輩であった。以前から、支部の若い人達が「同和」教育について教師と話し合うのをみていた。教師に対して一歩もひかず、ときには教師のまちがいを指摘する姿をみて、あこがれのようなものをもっていた。

卒業後半年たって、左官屋で働くようになった。このような曲折を経た後、Sさんと出会った。彼はぼくに、「社会科学を勉強せなあかん」としつようにせまってきた。そのころから、主として社会科学を中心に、西光万吉の本などを読んでいた。つらい肉体労働のあと、ただでさえむずかしい本にくらいつかせていたのは、高校へ行っている連中にまけるものかという気持ちだった。それと、読むことによって世の中の矛盾がみえはじめたおもしろさであり、十分わかったといえないが、読み終わったあとの気持ちのよさであった。

いままでやってきたことのむなしさが、文字を通して客観的にわかり、これから生きていく展望、すなわち、部落の完全解放のためには、ぼくの方でも必要なのだという確信が生まれてきた。

ぼくは左官屋はやめ、支部の常任となった。そして、この四月、F高校普通科の定時制に入學した。将来、どうしても教師になりたい。義務教育9年間の横道を、しっかりふまえた教師になりたいのである。

ぼくが味わってきた、部落差別ゆえのみじめさは、いまなお後輩たちの間に形を変えても生き続けている。彼らは、差別を実感しながらも、どうすることもできないあきらめの中で、方向性を失い、さわぎ、暴れるのである。教師は、ついそういう子を敬遠して、いつけを守るおとなしい子中心に教育をすすめるのだ。しかし、中学を卒業して2年たったいま、当時ぼくといっしょに扱われていたゴンタ連中が、高校校友の会の中心にすわっている。おとなしかった子の中には、顔を出さなくなった者もいる。いったい「中学友の会」は何だったのだろうか。ここにこそ、ぼくが教師になる必要性を感じるのだ。

「自闘の鼓動・・・まなび かたり おたけべ」 著者 梅原 達也

1993年10月28日第5校時

3年E組 授業者 榎村 光世

T<sub>1</sub> : それでは3年E組の全体学習がこれからはじめます。昨日遅くまでね、6時ぐらまで2時間ぐら話し合って、その後の全体学習です。今日は学習プリントも何もありません。だから、自分が思っていることを言ってもらいたいと思います。それでは資料の「荒れる心」というところから読ませてもらいたいと思います。そこから、みんなに発表してってもらいたい。

(T<sub>2</sub> : 資料範読「ゴンタこそが闘いを」より、「荒れる心」)

T<sub>3</sub> : 音野さんの生きざまを通して、あるいは今までの話し合い、特に昨日の話し合いを通して、今、みんなが思っていること、考えていることを発表してもらいたいと思います。今、自分が思っていること、考えていることを発表してもらいたいと思います。

KT(男)音野さんの生きざまってというのは、僕らみたいにクラスの仲間ってというのがなくて、一人孤立したようになって話す相手も少なかっただろうし、頼れる人もいなかったから、暴れまわって、少しでも気をひこうと思ったんだらうと思います。それで、教師になろうっていう気持ちは、自分が今まで教師とかに助けられてきたから、自分も助けられるようになりたいって思ったからだと思います。

BY(女)私もこの資料を読んで、K君と同じなんだけど、ずっと、音野さんが暴れたりしていたは、やっぱり仲間がいなかったし、そういうことだからだと思うんだけど、私もみんなが発表してくれないときは、そんな音野さんみたいな暴れたい衝動にかられます。

だから、音野さんもそういうような、少し違うかもしれないけど、一人っきりになったような気持ちだったと思うし、そういう気持ちになっているときにはやっぱり、仲間が必要だと思います。

MY(女)今、Bさんが暴れまわったりするっていうか、仲間が必要だって言ったけど、仲間が少ないから暴れまわるっていうことは、一人の人間の心を仲間はどれだけの力で支えているんだろうかなと思いました。

T<sub>4</sub> : 暴れまわりたい衝動にかられる。それでは、その一人の人を仲間はどれだけの力で支えているんだろうか。そうMさんは思った。それでは他の子はどう思ったのでしょうか。音野さんの生きざまを通して、みなさんが考えることを思うことを語っていきましょう。

NY(女)音野さんは、自分の嫌な気持ちとか、全部、そんな気持ちを暴れるっていうことに出していたんだけど、やっぱり口できちんと言わなければ、まわりの子にきちんと伝わらないと思います。だから、やっぱり自分の思っていることはきちんとまわりの子に言った方がいいと思います。

EK(男)音野さんは、みんなが自分の気持ちを分かってくれないから、暴れるんじゃないかって、分かってもらうために自分は何をしなければならぬのかということ、先に考えた方がいいと思います。

T<sub>5</sub> : 音野さんのこの問題を音野さんだけの問題にしないでください。



KT(男)話が変わるけど、今日の3時間目、昨日の2時間の授業をふまえて、話し合っ、K君が、1回では本音っていうか、自分の思ってることを全部言えないって言ってたから、僕も1回だけでは自分の思いを言えないと思う。自分の経験では1回言ったら本当に気持ちが楽になるんです。だから、誰かが1回言ったら次続いて発表するから、まず、1回発表することを目指して言ってほしいと思います。

KS(男)音野さんは自分が小学校、中学校のときに、部落差別を受けてきて、今の後輩たちが自分の学校で差別を受けていると、この資料でも書いていますが、自分が教師になりたいと決心したのは、その後輩たちを自分のような惨めな生き方、小、中学校を通して惨めな生き方をさせたくなくて、もっと強く生きるために自分が、自分が差別に負けない生き方をみせるというか、そう、生徒たちに教えていってあげたいから、教師になりたいと思ったのだと思う。

T。：今までみんなで音野さんの生き方を見てきました。これからみんな中学校卒業して、友だちとばらばらになって、生きていかないかんですね。自分自身というものがすごい大事になってきます。こうして全体学習していても、卒業したらそのことを忘れてしまうようでは困る。何のために私たちが、今、同和問題学習しているんですか。周りに振り回されて、大事なことを見失っていくようではいかんと思うよ。雰囲気のにまれて、自分にとって一番大事なことをなくしていくようではいかんと思うよ。自分にとって人間らしい生き方って、どんな生き方だと自分は思いますか。自分の足で立って、この社会の中を生きていく中で、満足できるような生き方ってどんな生き方って思いますか。考えてください。

NY(女)私はそういう人間らしい生き方とは、自分がというか、自分の思っている考えっていうか、それを大切にして、自分の意見をしっかりとって、一人一人が堂々と胸をはって生きていくのが人間らしい生き方だと思います。

MY(女)私は人間らしい生き方っていうか、よくわかりません。もし人間らしい生き方がわかっている人がいても、その人が思っているその人個人の考えだけが人間らしい生き方ではないと思う。人間らしい生き方がわかっている人も、それぞれみな考え方が違うし、その考え方の違いを大切にしていくのが私は人間らしい生き方だと思います。人、それぞれ違うけど、私はこれから生きていく中で、いい意味で少しくらい周りに影響されるのもいいかもしれないけど、あまり、周りに振り回されずにマイペースでいきたい。

BY(女)私もMさんと同じように、人それぞれの自分の生き方っていうのがあると思います。それで、私が一番思うことは、自分の思った道を自分なりに歩いていくことだと思います。だから、自分がこうしたいと思ったことは、最後まで、そうしたらいいと思うし、悪いことは悪いとか、正しいことは正しいとかってきちんと言えるようになったら、なったらと言うか、言えるようにするのが私は自分の人間らしい生き方だと思います。それで、先生もよく言ってたけど、100人中99人走っても一人残っても走るなって言ってましたね。そういうことも関係してくると思います。私は、Mさんとよく似てて自分なりに自分の道を歩いていきたいと思います。

EK(女)私が考える自分なりの生き方っていうのは、今の私だったらきっと、中学校卒業した後に、周りの意見とかに振り回されて、自分の意見をもてないような気がします。だから、自分が自分の意思を貫き通せるような人になるには、こういう同和問題とかをもっと真剣に取り組んでいけば、自分の意見もはっきり言えることにつながると思います。

KS(男)僕は、今まで発表とかしたら、みんなにあいつはいいかっこしているとか、思われているって思っていたけど、そうやって自分をごまかしていたけど、昨日の帰りの学活でみんなで学習したことで、初めて発表しました。真剣に考えたときの喜び、初めて発表できたときの喜びっていうのを味わったので、その喜びを感じる事が人間らしい生き方だと思います。

T：人間って、自分を輝かせて生きることが自分に、喜びを与えていることなんだろうと思う。自分に喜びを与えていくことって、ただ、漠然と生きているだけではどうだろうか。自分から喜びをつかんでいくこと、自分を輝かせて、生命（いのち）を輝かせて生きることではないかなあと、私はK君の発表を聞いて思いました。自分にとって人間らしい生き方とはどんなものだろうか。もう資料は知らない。はい、社会の中でこれから生きていく自分にとっていい生き方をどういうふうに考えていますか。

NT(男)僕にとって、いい生き方っていうのは、音野さんだったら教師になりたいっていうふうに、何か目標をもって頑張ることだと思います。

TA(女)私はまだ弱いけど、人を支えられるような人になりたいです。そしてクラスの誰もが一人一人みんなを支えていけたらと思います。強い人間になりたいです。強い人間になるために頑張ろう。

KS(男)僕が人間らしい生き方って思うのは、人それぞれだと思うし、千人いれば千通りの生き方があるって、それと一緒に人間らしい生き方も人によって違うと思います。僕が思うのは、友だちのこととか、仲間のこと、本気になって助けたり、間違った生き方をしていたら間違えてるって注意したりできることだと思います。それで、自分が絶対したいって思う目標を決めて、それがかなうまで、どんなことがあってもずっと努力することが人間らしい生き方だと思う。

IK(女)私の人間らしい生き方というのは自分らしく生きるということです。人に振り回されるのは嫌ですけど、みんながいてくれないと、一人では私は生きていけないと思います。だから、Aさんと同じなんだけど、人を支えられるような人になりたいです。

TM(男)仲間が困っているときに自分が助ければ、仲間も自分が困っているときに助けてくれると思います。自分のことだけでなく、仲間のことを自分のことのように考えられるのが人間らしい生き方だと思います。

HK(女)私はMさんと同じで、みんなと共に生活していれば、みんなが何か同じ目標とか持っていたら、誰か一人、また一人と先に走ってしまうことがあると思います。先に走っている人を見ていると残された人は焦ると思うんです。でも、やっぱり自分は自分、人は人でマイペースで自分の生き方をすればいいと思います。

EK(女)私が思う生き方は強く生きることだと思います。強く生きなければ自分がどんどん小さくなってしまいます。そうすると自分が本当にしたいこととかできないから、自分自身を強くもって生きていくことだと思います。

KR(女)私の人間らしい生き方は3Eもそうなんだけど、今、一ヶ月近く休んでいるS君がいて、それで、家まで行って話してくれる子もいるけど、S君のように登校できないような子を出さないような人に私はなりたいです。



TY(女)これから、社会に出てやっぱり大勢の人の流れってというのがあって、自分を見失うことがあると思います。だから、自分って人間がいるっていうことを主張しながら、生きていくことが人間らしい生き方だと思います。

AY(女)私が思う人間らしい生き方ってというのは、自分に正直に生きることだと思います。他人に左右されず、自分の道を自分の力で切り開いていくことが、自分に正直に生きることです。それはすごい自分の意見や考えを大事にしなければならないことですけど、自分に正直に生きたいと思います。

KK(女)私が思う人間らしい生き方ってというのは、差別に負けない心をつくることだと思います。社会では間違ったことがたくさんあって、自分が自分の気持ちを理解してもらえないこともあると思います。でも、自分が正しい行動をすることで、自分が人間として磨かれてくると思うから、自分が正しいと思うことは、行動に表わしていきたいです。

T。：自分が正しいと思うことは行動に表わしていきたい。じゃあ、私たちにとって、行動っていったい何だろう。中学生であるみんなにとって、行動するってどういうことなんだろう。何がみんなにとって、私にとって行動なんだろう。

OT(男)自分にとって人間らしい生き方ってというのは、心の中で良いとか悪いとかを判断して、自分が正しいと思う道を歩んでいくことだと思います。

TT(男)自分にとって人間らしい生き方ってというのは、人の立場に立って物事を考えることができることだと思います。

TK(女)自分にとって人間らしい生き方ってというのは、まだ、ピンとこないけど、目標をもって自分の意思を貫き通すことも大事だし、仲間の意見もちゃんと聞くことが大切だと思います。

TK(男)僕にとって人間らしい生き方とは、強くなることだと思います。強くなれば、自分の今まで見えなかったことが見えてくるし、人の良かったところや悪かったところが見えてくるからだと思います。

OY(女)私にとって人間らしい生き方ってというのは、自分に与えられたことを一生懸命になってやって、マイペースでやっていくことも大切だけど、人の意見も取り入れて、自分の考えと混ぜ合わせて大切にしていけることが大切だと思う。

T。：今までみんなにとって人間らしい生き方、自分にとって人間らしい生き方とは、っていうことで考えてきたけれども、身の周りのことを考えてください。私たちが生きている社会を考えてください。私たちの生きている社会には、部落差別がまだ残っています。部落差別の解消に向けて私たちは頑張っています。だけど、部落差別はまだあるんです。部落差別ってというのは、私たちがこれから生きていく中で、絶対避けて通ることができないことだと思います。みんな、部落差別はなくさないかんものだと、本当にわかっている。だけど、なくさないかんと思っただけでは部落差別は、なかなかなくならんのです。何もしないでただ見ているだけではだめなんです。差別をなくさなければいけないとわかっている私達が、部落差別の解消に向けてしっかりと行動していかなければならないんです。私達がこれから生きていく中で、部落差別と自分はどう関わって、どう生きていくか。部落差別解消のために、どう生きていくかが、これから同和問題学習をしてきたみんなに問われていることだと思う。この板中でやっている全体学習の中では、みんなすごい熱くなって、昨日も言ったけど、南会場の部落問題学習のときも出たけど、熱くなって頑張っていける。だけど、この板中を卒業してどうだろう。そこで、ああ、あのときは頑張っていたなあでは困る。部落差別は絶対になくさないかんものだし、私たちの生活に関係していることなんです。絶対見過ごすことのできない部落差別、これを解消するために自分は、これからどう生きていこうと思いますか。どう歩いていこうと思いますか。あるいは、部落差別解消のために自分は何をしていこうと思いますか。自分の中にある部落差別への怒りとか、解消への願いとか、それ

をあなたたちはそのままにしておけないはずです。だから全体学習で熱くなるんでしょう。それを、どう表わしていきますか。どう、あなたたちは持ち続けていきますか。同和問題に関わって、あなたたちはどう生きていきますか。

HM(男) 誤った考えをもっている人がいたら、それは間違っていると注意をすることができたら、部落差別はなくしていけると思います。

MM(女) 私にとって部落問題学習っていうのは、私にとってはとても大きな学習で、私の心の中から部落っていう文字が消えるときは、みんなが私の仲間であってくれるときに、一番私にとって部落っていう文字が消えるときで、私にとって仲間は、私達が生きていく中で一番大切なものだから、宝物のようなものだし、自分自身も強く生きていこうと思う。

TA(女) この資料のことなんだけど、音野さんはSさんに出会ってSさんの卒業が迫ってきてから、音野さんも同じように強くなったのだから、私達も親が部落に対してよくない意見を持っていたとしても、それは間違っているとか言えるような自分になって、そういう間違った考えを持っている人をなくしていけばいいと思います。

KK(女) 昨日、3Eで6時5分ぐらいまで話し合っていた後、家に帰って親に話したけど、そのとき私は一人の差別者を同和問題について理解のある人にしようと思って親に言ったんだけど、まだ、私が部落問題に対して強く取り組めていなかったから、母の言った言葉に対して応えることができなくて、母はまだ差別者だから、今日も家に帰って絶対、理解ある人にしたいと思います。

T<sub>10</sub>: Eさん絶対あきらめないでください。Eさんが親を好きだったら絶対あきらめたらいかん。Eさん、これからです。

KK(女) この問題は避けて通れない道だから、みんながみんな、自分の思っていることを本音を言っていないかんし、昨日もそうだったけど、クラスの半分くらいの子が自分の思っていること言ってくれて、頑張っていないかんしと思いました。

BY(女) みんな自分に関係ないと思っている人、いると思うんですけど、同和問題学習は私が思うに何らかの形で、絶対みんな関わっていると思います。だから、みんな昨日も言ってくれたように、自分の両親の話や自分の好きになった人の話とか、いろいろしてくれたから、絶対何かで関わっているのだからそれを忘れたらいかんと思うし、部落差別は、すごい矛盾していることだから、そんな矛盾をこれからも残していったらいかんと思うから、本当に筋の通った世の中にしていくのが、私たちの仕事だと思うんです。だから、それをみんなが忘れたらこの世の中終わりと思うから、みんな一緒に真剣に考えてほしいです。

NM(女) 今日、すごく緊張していて、今もすごくどきどきしているんだけど、思いを持っているのに言わないのは逃げているような気がするから言います。昨日言ったお母さんの友だちの結婚差別のことだけど、あの後、何か疎遠になったみたいで、そのお母さんの葬式に、結婚した人のお母さんは同和問題についてわかってくれたかどうかまでは、わからないって言っていたけど、あれは先生とかみんな説得してくれて、たぶんわかってくれたと信じています。それと、少し話は前に戻るんだけど、自分にとって人間らしい生き方っていうのは、自分の思いを言うことだと思います。私は緊張して言えなかったけど、同じクラスの仲間がいるんだし、自分を殻に閉じ込めなくてももっとも自分を出して行って、同和問題を考えていきたいと思います。

T<sub>11</sub>: さっきNさんが言ったように、逃げたらいかんですよ。逃げても何も解決しないんですよ。逃げたらそのまま残っているんですよ。それで、説得してくれて結婚できたと思うって、解決できたって思うってNさんが言ったけど、この問題について全く本当のことを知らない人っているんですよ。部落差別が矛盾したことだって、それさえも知らない人っているんですよ。その人たちに矛盾したことだ、部落差別はおかしいことだ、絶対なくさないかんことだって

わかってもらうために、わかっていくために、誰が動かないかんかっていう問題になったら、この問題をきちんと勉強した皆がその人たちに語っていかなければ、その人達は知らないまま過ぎていきます。あと続けてください。

KS(男)この前南の学習会の同和問題学習に参加して、今まではこの同和問題学習全然おもしろくないってみんなに言ってたんだけど、その後みんながそのことについて話し合ってくれて、僕も昨日の放課後の学習で初めてあんなに発表したけど、今日、学習会の会場で森口先生が言っていたように、みんなは今同和問題学習に真剣に取り組んでいるようだけど、雰囲気によっている人もおるって言って、その雰囲気によっているだけだったら、高校に行けばもう半年くらいしたら冷めてしまうっていうことを教えてもらって、僕は将来差別される立場にあるのから高校行って頑張れるのもこの学習をどれだけ深めていけるかだと思ってるから、頑張っていきたいです。

T<sub>12</sub>: 頑張っていこう。K君、君は部落差別になんか負けないよ。さっきあなたたちにも言うたけど、この板中に来て私の心には部落差別への怒りとか、解消しなければいかんという気持ちすごい芽生えてきました。それで、それがどんどんどんどん大きくなってきました。今、みんなとこの3年生や3Eで、全体学習している。私はもう板野中学校を出ていくかもしれません。出ていった後、さっきK君が言ったように、どれだけ自分の中にそういう心を持ち続けていくか、部落差別解消のために自分で熱くなって闘っていかれるかが私やあなたたちに関わっていると思う。私はこれを中途半端に終わらせたくない。だから今、頑張っていきたいと思う。K君に応えてください。

KT(男)昨日の2時間の授業のことは他のクラスにはわからないと思うけど、本当に良かったよ。もう、この組だけでも、自分だけが思っているのかも知れないけど、差別がなくなったと思う。だから、みんな何かちょっとしたことでも笑えたり、そんなことができるようになったと思う。クラスが一つになったと思う。差別がなくなったら、ちょっとしたことで笑えるようになると思うから早く差別をなくして、みんなが笑えるように、みんなが仲良うになれたらと思う。

NY(女)差別をなくすのは、私や自身一人一人だと思うんよ。だから、逃げたらいかんし、自分自身の意見っていうのは持つてるけど、周りに影響されて私もみんなと同じみたいな感じになるときってたくさんあると思うから、自分の意見があるのだったら、その意見をちゃんと通して逃げたらいかなあって思うから、みんなも逃げないでほしい。

TM(男)昨日、K君が言っていたように、今、僕たちが同和問題学習しなければ、僕たちが大人になったとき、また、今、差別している他の人達と一緒にあって、他の人を差別したりするかもしれないから、今、全体学習とか道徳の授業とかで、しっかり勉強しなければいけないと思います。

T<sub>13</sub>: 頑張っていこうな。続けていこうな。続けよう。はい、Kさん。

KK(女)差別されて死ぬ人とかいるし、自分も差別に負けるんいやだから、昨日先生が言うた通り、今、一生懸命していなかったらいかんと思う。できるだけ自分の意見は貫き通したい。

TY(女)親もそうだけど、差別に対して理解してない人にわかってもらえるまで、話し続けることが今、大切だと思います。

MY(女)昨日の2時間の話し合いで、K君を主に、クラスの子からいろんな大切なこととか、しなければいけないようなことをたくさん教えてもらったので、EさんやTさんが親を正しい方にしようと、間違っていることを、きちんとただすように頑張っているのだから、私の親も頑張らないかん側にいるのに、もうあきらめてしまっているら、それを一緒に頑張れるように私も話をしていきたいです。

BY(女)差別をなくすのは、やっぱり一人ではやっていけないと思います。だから支えっていうの

がいます。それで、さっき支えになりたいって言ってくれた子が何人かいたけど、昨日、発表していたときに、私はみんなが発表するまで待っていたんだけど、黙ってしまって、そのときにいっぱい言うてくれて、あれはすごい私の支えになったから、Tさんが支えになりたいって言ったけど、私としては十分支えになってくれました。だから、発表すること一つの支えになると思うから、私も支えになりたいから、発表するし、支えになる人も発表してほしいし、そういうふうに支え合って差別をなくしていこうと思います。

T<sub>14</sub>：はい、支え合っていきましょう。応えていきましょう。

MM(女) さっきBさんが言うてくれた支えるっていうことで、私は今までみんなからも支えられたし、私が一番、感謝しているっていうか支えてくれたっていうのは、私の一番、大事な友だちのNさんで、Nさんは一番私を支えてくれたと思います。だから、これからはNさんを私は支えていきたいです。

T<sub>15</sub>：しっかり支え合っていこうな。支え合って生きていくのが人間です。自分も支え、人も支えてくれる。それが人間の社会のあるべき姿なんではないだろうか。はい、ほな、続けていきませんか。

TA(女) さっきBさんが支えになってくれてるって言ったとき、嬉しかったです。私が発表することで、誰かの支えになるんだったら発表していききたいです。これからも、頑張って同和問題学習をやっていききたいです。

T<sub>16</sub>：はい、これからです。頑張っていこう。3Eのみんなの前の全体学習って、これ一回かもしれんのよ。はい、発表したいという人、どうぞ。もう時間もだいぶ超過しています。これが最後、発表しなかったら悔いが残ると思う人は、今、発表していつてもらいたいと思います。

KS(男) みんな、さっきから支え合って生きていくってみんな言っているけど、これは森口先生の言ったことなんだけど、僕もその通りだと思っているので今から言います。もうすぐ僕たち卒業するんだけど、みんな今、支え合って生きています。でも、その支えられている人が卒業と共に高校が別々になっていったら、その支えがなくなる訳で、支えがなくなったら支えられていた人も落ちていく訳で、だから、支えがなくてもちゃんと立っていれるような人間になりたいと思います。

T<sub>17</sub>：それは自分の中での闘いでもあるな。そして、自分の足でしっかり立って歩んでいこう。

KM(女) 国語の教科書の中の詩で、「人間らしい死をあたえよ」っていうのがあったんですけど、人間らしい死に方っていうのは、もう死んだら一緒みたいだけど、生きていた中の人生で精一杯生きて、本当に生きて楽しかったと思って死ねたら本望と思うけど、いろんな差別や、部落差別のような差別にであって、心から苦しんで、どうしようもなくなって死んでしまったっていう人たちの死に方っていうのは、本当の人間らしい死に方ではないと思うので、そんな人は絶対つくったらいかんと思いました。

T<sub>18</sub>：よりよく生き、よりよく死ぬために私たちが闘っていかないかん。はい、発表するぞという人、もういないですか。私はこの資料もらった時に、みんなに願ったことがいっぱいありました。その中の一つにさっき、K君が言うてくれたように、自分の足で立って歩いていける人間であってほしいと思います。そういう願いがありました。支えられるだけではないかんです。自分の足で立って歩いていかなければ。仲間っていうのは、みんなが胸をはって生きていく、芯棒のような背骨のようなものであるかもしれません。だけど、この歩みを進めていくのは自分自身なんです。しっかり立って歩んでいける人間であってほしいと思う。そういう人間になるために自分自身が闘って、成長していつてもらいたいと思います。それは、仲間とともにあることだと思っています。それでは3Eの全体学習終わります。

1993年10月28日(木)第6校時

3年全体 授業者 吉成 正士

T(森口) 3Eのみんなの発言を聞いて、授業を観ていたみんなの中にもぐっとくるものがあると思います。3Eの仲間の思いに応じていく、みんなが確かな歩みをはじめていく、そういうこれからの時間になるように頑張り合いたいと思います。

T : 5時間目に3Eがしてくれた全体学習、いろんなことを他のクラスの人達も思うところがあったんでないかと思います。じりじりと早く発表する場がないだろうか。そういう思いの中で先程の時間、過ごしていた人がたくさんいたんでないかと思います。限られた時間です。その中で最大限のことをやってみましょう。E組の人も繰り返し、繰り返し発表してくれると非常に心強いと思います。5時間目に続いて、3Eの人も頑張ってください。

OT(男) いつも思うんですけど、E組の授業を見て思ったんですけど、自分の意見がきちんと言えない子がたくさんいます。だから、いくらでかい夢もっていても、それを実行しなくては何もならないのと一緒に、いくら自分の意見持つってても、言わなかったら僕ら分かん。だから、もっと自分の意見を、自分の本当の思いを聞かせてほしいです。それで、自分もみんなの前で自分の本音を言えるようにしていきたいです。

KS(男) 僕にとって部落問題は、一番最初につかつた、一番大事な問題だから、今、ここで手を挙げなかったら、これから先、絶対後悔すると思うから、今、ここで下向いたまま黙っていたら何にもならないと思います。

HM(女) さっきのE組の授業は、盛り上がってすごく良かったと思います。最後に出た自分にとって部落問題学習は何かっていうときに、何かすごく、ここから見てて、E組も盛り上がっているし、手を挙げたくなるくらいに思いました。自分にとって部落問題学習は、自分自身のことだし、大人になっても生きていく限りずっとついてくるもので、だけどそれを憎んだり、隠したり、恥じたり、嫌がったりすることはないと思う。だけど、今、板中にいてすごい嫌だなんて思うことは、たまに廊下とか歩いていて、自然に耳に入ってくることなんだけど、部落問題学習終わったときとか、はじまる前とかに、たまにだけど、「部落問題学習っておもしろくないなあ」とか、「嫌だなあ」とか、そんなこと言う人がたまにいるような気がする。それで、その人がいくらクラスやこの全体学習の中でどれだけいいことを言っても、その人のことは、信じれんような気がする。だから、そんなことの積み重ねで、信じられない人がいっぱいできてきたら、自分自身のこともなかなか言えないし、思っていることも、恐くて言えないようになるから、早くそんな恐くなるようなことがなくなる日がきたらいいなあと思いました。

EA(男) 本音を言うのは、まわりに励まされるということもあるけど、言わなければいけないのは、自分自身が語ることだと思います。だから、下を向いていないで、胸はって自分の思いを言えたらいいと思います。

KN(女) この学習を、今、頑張っておかんと、頑張って発表せんと後悔するし、これから先、だんだん自分がだめになっていくと思います。だから今、頑張りたいです。

FS(女) さっきのE組の授業の中で、人間らしい生き方っていうことができてきたけど、私は人を信じて生きていければいいなと思います。もし、信じられないような人がいるんだったら、自分が信じられるようにその人を変えていきたいです。私にとって同和問題学習が何かまだよくわかってないけど、今言えることは自分のためにすることだということです。

YE(女) E組の授業を見てすごい仲間の絆が深まっているなあと思いました。F組も6月ぐら

いに全体学習をしたんだけど、それから後の授業は、全然発表が続かないで特定の子だけ話をすすめているっていう感じなんで、F組もこれから頑張っていきたいと思うし、E組もF組とか一緒ににならないように、このままずっとこういう絆を深めていってほしいと思いました。

KH(女) Hさんの意見を聞いて、私も何か同和問題学習があるときに嫌だなどか思ったり、発表する子を見ている、かっこつけているとか思ったりしてきました。だから、もうそんなことを思わないように、私もその子たちに信じてもらえるように発表していきたいです。

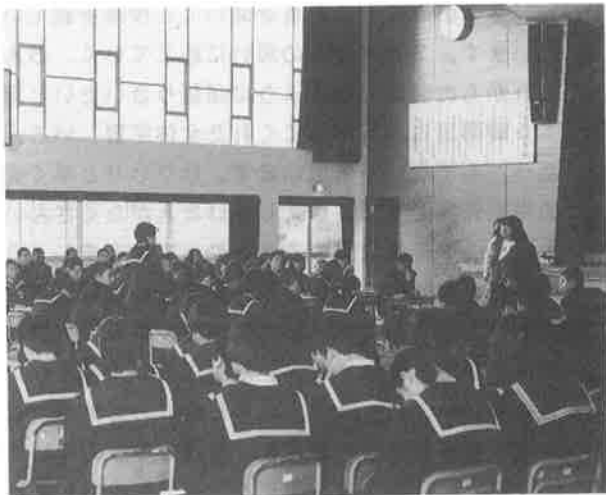
KJ(女) Hさんが言いにくくなるって言ってたのを聞いて、確かにそうだと思います。今だったら言いにくい空気が、ずっと教室とかでうごめいて、

この場でも言いにくいような気持ちがあって、1年生のときだったら、まだ、教室とかこの場で発表するときは、すごい言いやすかったです。2年とか3年とかになってどんどん部落差別の本質がわかってきたり、ずっと部落問題学習をしていくたびに空気が重くなって、手も重くなって、どんどん何か自分の心が押し付けられているような、空気がやっぱりどっかで作られていて、それがいつも流れているから、言いにくいんじゃないだろうか。今、私もこうやって言っているけど、今でもすごく言いにくい感じはします。

KS(男) 僕は今思うに、この問題は一人一人が頑張っていかなければいけないことだし、部落の人は、差別にであうこともあるだろうし、そんなことを言って何もしいないことはいけないことだし、それで僕は森口先生に何か支えられているみたいになっているけど、僕は森口先生が言うように、明日より今が大事って言うのが本当に大事だと思うから、一人でも多くの人に発表してもらいたいと思います。

KA(男) 今、S君が言ったように、この問題は一人一人が考えていかなければいけない問題だと思うし、Hさんが言っていたように、部落問題学習がはじまる前とか、終わった後とかにおもしろくないなあとか言う子がいて、その子は無関心だし傍観者だと思うんですけど、そういう子を変えていかないといけないのは、私たちだと思います。クラスとかで話し合いするときも、全体学習とかこういうふうにしようときとかも、無関心をよそおって寝てしまったりしている子がいるかもしれないけど、伝えたいこといっぱいあるんだけど、その子が寝ていたら何も伝わらないし、だからもっと真剣に取り組んで、この問題が自分にとって何であるかを私だってまだはつきり全部分かっているわけじゃないのだけど、みんなと一緒に頑張っていきたいです。

HS(男) 3Eの授業をみて思ったのは、昨日4時から6時位までやって、みんな熱心で真剣だなあということでした。みんなの姿が一生懸命に見えました。先生が「明日全体学習があるけんやらないかん。」とあって、みんなの意見も聞かないで、「放課後やる」って言って、そのまま先生が無理に長引かしたりして、みんな塾とか用事がある人とかの意見を聞かないで放課後したんだったら、この問題をわかろうとする子も嫌な思いをするんじゃないかとも思います。でも、用事があつたりどうしても帰らないかん事があつても、みんなはそんなことは



気にせず、気にしているのかもわからんけれど、昨日放課後遅くまで残って学習していると聞いてすごいなあと思いました。僕の1、2年の頃は言ったら悪いけど、部落問題学習なんかでなければいかんのかと思ってたし、こういう授業なんか何のためにするのかと思っていました。だいたい、学習し始めたら5、6時間目ずうっと椅子に座って、おもしろくないことばかり言って、それでみんなの意見を聞いていたら眠たくなるし、うつぶせになってしまって、それで寝ていたこともあった。そのときは時々、意見言うときは言い争いしたりして、それ聞いて面白いなあみたいに傍観者でいたし、それに時には先生まで一生懸命言い出してそれも面白いと思っていました。そのときは本当に自分のことのように考えていませんでした。今、思ったら、何か無茶苦茶な自分だったなああって、過去の自分が今僕の横にいたら、自分でもどつきたくなるなあと思っています。それと、今、発表するのは本当に差別をなくすために、差別で命を失う人もいるし、むかし本で読んだけど、部落の人との結婚には絶対反対っていう人がだいたい80パーセントくらいいて、だから部落内の人同士の結婚が多くなって、それを読んで思ったのは、最近の人は表にはそういうことを出さないうで、影で差別したりしています。部落の人間が何かしたら、やっぱりとか、あそこはあんなことするなあとか言っていると思います。僕はそれが許せないと思います。影でこそこそ言うのは絶対やめてほしいと思います。そして、部落の人間が汚い家に住んでいたら、汚い家に住んでいるから差別されるんだとか言うし、綺麗な家に住んでいるのを見ると、今度は部落の人間のくせにとか思っている人もいるだろうし、それで中には発表するのがかっこいいとかいう人もいるだろうけど、かっこいいと思うんだったら、自分も発表したらいいと思います。僕だって立ったとたんに考えていることが消えることがあるし、友だちを、信用できる仲間がいなかったら発表できんと思います。この3Fにも僕が信頼していて、いつも教室でも発表している子がまだ、何人もいるのにまだ発表してくれてないと思うし、もう少ししたら発表してくれると信じています。一番信用しているT君に、今、言ってほしいと思います。

NK(女)E組の授業を見ての意見だけど、はじめは本当に雰囲気が悪くて、発表する子も数えるほどしかなかったけれど、だんだんみんなが自分からすすんで頑張っていかなければいけないという、頑張っていかなくちやいけないと思って、手を挙げて発表してくれる子がたくさん増えてきて、本当にすばらしいと思います。それで、今は発表している子もたくさんいるけど、その子につなげていって自分の思っている意見を発表していかなくちやいけないなあと思いました。

T<sub>2</sub>： やっぱり言わなければいかんですね。Hさんが言ってくれたようなことが随所にできますね。自分も昔この学習するのが嫌であったっていうことが、いろんな発表の中にできます。そういったところを本当の気持ちで出していくことっていうのが、まず、スタートに立つことではないかって思います。どうでしょう。そんな思いを抱いていた人もいないでしょうか。

MM(女)さっきYさんが言っていたみたいに、1年生の頃、きれいごとばかり言ってたから言いやすかったのだと思います。2年生の頃、本音を言わなければいかんと思って、全然言えないようになって、3年の2学期になってやっと言うことができるようになって、でも生活面は全然違うことをしているかもしれんけど、私は発表することはできるんだって思えて、そのぶん、自分の弱い心に勝てることができるようになりました。

T<sub>3</sub>： きれいごとは、本当に言いやすいですね。だけど、きれいごとを教えているのも、教師をはじめとする大人ですよ。情熱をそそぐのも教師をはじめとする大人ですよ。

NA(女) さっきの3Eの授業はすごく良かったと思います。それで、友だちのことを支えるって言ってたけど、私も友だちにいっぱい支えられてきました。それはいろんな自分の悩みとか、いろいろ相談して、いっぱい支えられてきました。今度は支えられるばかりでなくて、支えるようになりたいです。

SM(女) さっきの3Eの授業の中でKさんが、国語の授業のこと言ってくれて、私もその通りだと思いました。私も1年、2年のときに全体学習が嫌で嘘をついていたんだと思う。だけど、今は全体学習するのが好きです。

OA(女) さっきHさんが言ったことについて発表します。私も時々全体学習が嫌だなあとか、同和問題学習が嫌だなあとか思うときがあります。それは自分の意思がすごく弱くて自分に負けているんだと思います。これからは真剣に取り組んで自分自身に勝ちたいです。

KK(男) さっきのK君の意見で、もう誰も泣かしたくないって言ったのだけど、この間のO中学校との交流学習会で山口先生が、踏まれて痛いって言わなければ、誰もわかってくれないって言っていたんですけど、その資料の最後のほうに書いてあったんだけど、「自闘の鼓動・・・まなび、かたり、おたけべ。」って、その「おたけべ」っていうのが一番心に残って、叫ばなければ誰もわかってくれないと思うんです。さっきO君も言ったけど、行動に移さなければ全然誰にも認めてもらえないし、ただ、差別が悪いていうだけだったら誰にでもできると思うんです。そんなこといつでも言えるし、皆の目の前で叫ぶのもいいと思うけど、行動に移すっていうか、今の僕は森口先生の生き方みたいにすばらしい生き方がしたいと思うし、今、僕たちが精一杯できることは、こういう全体の場で手を挙げて、この資料と一緒に叫ぶっていうか、発表するのが僕たちの「おたけび」と思うんです。だから精一杯こういう場面で発表していこうと思います。

T<sub>4</sub>: 心が育ったら、次は行動ですね。行動に移さなかったら、新たな成長は望めないですね。

TM(女) さっきのE組の授業でS君の言っていたことで、半年くらいしたら熱くなっていたものが消えるって言ったので、以前の全体学習は僕たちC組がして、あのときはすごいみんなもりあがっていて、一人一人がすごい盛り上がっていて、クラスで学習したときは空気があのときと違って、重くなっていて、発表とかも少なくなってきたんだけど、今日のE組の授業見て、また、あのときの熱いものがよみがえってきたから、また、C組にも帰って発表とかしていきたいです。

HY(女) 3Eの授業を見て、私はEさんの「今日こそは親に分かってもらう。」っていうのが、すごい心に残りました。この中にも親が差別していることがわかっているのに、知らないふりしてっていうか、何も言わないでいる人がいると思います。私は一回、親と話し合ったけど、それだけで満足していたっていうか、それだけだったような気がします。Eさんの言葉を聞いて、自分も2回とか3回親と話し合っ、本当にわかってもらえるようになりたいと思います。

OM(男) 僕は全体学習を通して、時には自分の気持ちをごまかしていたときもあったと思います。しかし、全体学習をしていて自分の考えをもてるようになってうれしく思います。やっぱり、人間は輝いていなければ生きていく価値はないと思います。

T<sub>5</sub>: 学校だけの同和问题学習になってしまうとね、学校離れた場面ではこの問題はあまり出てこないでしょうね。日常生活で同和教育が頭の中にありますか。家に帰って同和教育が頭の中にあるのでしょうか。学校だけの教育であれば全く意味がないのではないのでしょうか。

KD(男) こんな3年生全体の前とか、全体学習で本音を言うのはすごい勇気のいることだし、難しいことだと思うけど、言おうと思ったら誰でもできることだと思います。さっき、O君やA

君たちも言ってたけど、行動に移さなければ友だちだって理解してくれないと思います。だから、みんな本音を言うていくことが大事だし、こういう学習を通して本当の友だちができていくもんだと思います。だから私達も頑張って、絆をつくって行って仲間と一緒に頑張っていきたいと思います。

TM(女)この全体学習で自分の思いを語っていくことが大事だと思うし、今の自分には絶対に実現したい夢があって、その夢の中を追いかけていく中で、部落差別に出会ったらどうしようって思うときがたまにあって、そんなときやっぱり3Aの子とかが仲間として支えてくれると思うし、その夢の中がもしかなったとして、そのとき部落差別に出会ったら、その夢捨てて負けてしまうかもしれないから、その夢が実現していったら自分もその夢のように強くなっていきたいです。

KM(女)5時間目3Eの全体学習を見ていて、K君が、「今まで自分はこの問題がすごく嫌だった」ということを言ってくれて、月曜日の南会場での学習会でもそのことを言ってくれて、私はすごくうれしくて、私はこの問題をするのが今はすごく好きで、楽しいし、そう思っているけど、この問題しているからといってみんながみんな、この学習が好きなのじゃないし、嫌いな子もいるって思っていたけど、K君がそうやって言ってくれて私は、もし自分が嫌いだったら学習会とかクラスとかで自分はこの学習が嫌いだっていうことが言えるだろうかって思ったら、やっぱりK君みたいに堂々と言えないと思うし、それで、学年とかクラスでそういうふうにいる子もいると思うけど、私は別にそういう思いをもっていたっていいと思うんです。でも、それを嫌いって言ってくれなかったら、私もその子が何考えているんかわかんないっていうふうに受け取ってしまうから、嫌いでもいいから、やっぱり本音を言って欲しいと思うし、嫌いでもなくても、この問題に関してとか、何か思うことあるのだったら、やっぱり言うのが一番大切でないのかと思います。私が今いったい何ができるのかっていうたら、学習会とか、3Fでとか、こういう場で語り続けることが一番私にできることではないかなと思って、発表しようかどうか今も迷ったけど、発表しなければいかなと思って、手を挙げて発表しています。それで、さっきD組のN君が以前の全体学習は盛り上がったけど、その後のクラスでした話し合いは、なかなか発表しないって言っていて、3Fも6月に全体学習やったけど、2学期に入って話し合いとかしたけど、私が思っていたようにみんな発表しなくて、だけど、最近2週間か1週間くらい前から、数学の時間とか話し合いの時間を取ったりして、また、3Fが6月15日のみんなのように戻ってきているようで、3Fのみんなのスタートになったと思ってるし、3Cのみんなも頑張ってるしって思いました。

OA(女)今も言ってくれたんだけど、冷めていくのは、自分が誰かが言ってくれるとか思ってしまったり、もう、これで峠を乗り越えたと思ったりしている子がいるから、雰囲気が悪くなって手が挙げれんようになっていくのだと思います。自分からすすんで頑張っていったら、誰かが手を挙げて発表してくれると思わなくても、自分ですすんで手を挙げれば、重たい雰囲気を変えていけると思います。

MM(女)昨日、私たちのクラスであったことなんだけど、O君が私たちのクラスの人たちが何か信じられないっていうことを1時間目に聞いて、私は少しびっくりしたんだけど、クラスの部落問題学習のときとかでも、特定の子だけしか発表しないし、いろんな悩みごとを相談しても、ちやかされて返されるっていうことを聞いたとき、部落問題学習とは関係ないかもしれないけど、そんな差別的なこともやっぱり日常的にあって、次の私たちの全体学習のときに、もし特定の子しか言えないようになったら、その場で終わってしまいそうな気がします。

MH(男)さっき、Nさんが言ってたのと一緒だけど、僕も1、2年のとき綺麗事ばかり言ってい

て、意見言いやすかったんだけど、3年生になって、本当に自分の思っていること言うのが、すごい辛くなってわかってきて、発表するのが嫌だになってそれから思いだしたんだけど、そういうのでなくて、本当のことを言わなかったら、差別はなくなっていくのだから、自分の思っていることをきちんと言っていこうと思う。

IN(男)僕はあまり同和問題学習が好きではありません。それはその時間にみんなが真面目に思いっきり発表しても、すぐにもう冷めてしまったって

というような感じになってしまうからです。何があるとうすぐ冷めたらいかんと思うから、ちゃんとこれから後も、次の授業のときも考えていけるように、すすめていけるようになりたいです。



KO(女)私も1、2年のときはこの学習が嫌でした。とりあえず手を挙げて何か言えればいい、みたいな感じで、2、3年になって何かが変わってきて、そのとき初めて自分を見たような気がします。

BS(女)3Eの全体学習を見て6月にした3Fの全体学習を思い出しました。3Eがする前にF組で数学の時間とか道徳の時間に話し合いをして、ある子が学習会に行ってみたくて言って、私も行ってみたいと思ったので、25日に4人で行きました。初めは行きたいって思う気持ちもあったし、珍しいから行ってみようっていう変な気持ちも両方ありました。それと、学習会に行っていない子から、そんなとこなんで行くのってというような目で見られないかなあと思ってすごく怖かったです。だけど、「行ってきた」って次の日に友だちに話してみたら、私も行ってみたいとか言ってくれて、その日にこの学習を先生が時間つくってくれて話し合いをしたときに、私の仲のいい友だちが発表してくれたときは、本当に嬉しかったです。学習会に行ったらMさんとかが、「また、1ヶ月に1回でもいいから来て。」って言われたときは本当に嬉しかったです。

AY(女)さっきAさんが言ったことで、私は今までに一回も親と話をしたこととがありません。こういう同和問題についての話をしたこととありません。それに、親が間違えた考えをしていますが、それは違うって言えたことがありませんでした。

OT(女)今私は本当に弱い人間だから、このままだったら一生間違った考えをしている人に、それは違うって言ってあげることができんと思うから、みんなと一緒に学習していった強い人間になっていくことが目標です。

KN(女)発表するっていうことは、やっぱり難しいことだと思うんだけど、今発表できる子は、発表できない子たちが発表しやすいようにそんな雰囲気をつくってあげたいと思います。それでその発表できたことを実生活にうつせていけたらいいなあと思います。今、こうしてずっと、みんなの話を座って聞いていたんだけど、実生活っていうか、自分の行動にうつせてない子がいっぱい結構いるんで、それも辛いなあと思っています。それとTさんも弱い人間とかでないと思うし、Yさんも発表してって強制的には言わないで、発表できたらできたでその人強くなれるし、それはそれでいいと思います。

- KM(女)全体学習が始まる前とか後とかおもしろくないと思っている人や全体学習で寝ている人は、普段綺麗事しか言っていないと思います。私は今発表するのにすごく勇気がいったんですけど、今頑張っておかないと後悔するし、これから先も後悔すると思うので、これから先も勇気を出して発表していこうと思います。
- UK(男)さっきHさんが言ったことなだけで、Kさんのことで話し合いをしていて、僕は一応言ったんですけど最後だったです。それで、それも友だちが発表するから、僕もつられて言ったんよ。それがなぜかすごい情けなくなって、もうそんな思いしたくないです。それで、みんながっていうのではなくて自分がついていう思いで、この問題に取り組んでいきたいから、今度の3年生最後の全体学習、3年間の全部まとめてぶつかっていきたいと思います。
- KS(男)さっきYさんやU君が、昨日、僕が人が信じられないって言って、話し合いをまた開いたのだけど、発表するときとか、今もそうだけど、みんな見渡せば真剣に聞いてくれる人がいる限り、早く終われとか、そういうような目で見ているような、何かそういうふうにいる子がいる気がして、発表しづらいっていう気がしてくるんですけど、全体学習とか積極的に発表するような子は、部落差別に関係しているとかいうふうな意見があるから発表している人が多いと思うけど、部落差別に関係がないと思っている人だから、発表ができないと思います。
- T。：少し待ってくださいね。たくさん手が挙がっています。たくさんいすぎて当てようがないので今、手を挙げている人、すいませんが立ちってみてください。今、手が挙がった人、最後の発表をしてもらって、この時間終わりたいと思います。いいですか。限られた時間です。
- AK(男)今まで自分の本当のことを言ったり、家でのことを言ったりするのは、恥ずかしいとかそういう感じで、ずっと言わなかったけど、そんなこと繰り返していたら部落差別はなくならんと思うし、本当のこと言いにくいと思うけど、それをみんなの前で語っていきたいと思います。
- KM(女)さっき3Eの授業で支え合うっていう話が出てたけど、私もみんなに支えられてばかりで、支えるっていうことがなかなかできてないと思うけど、これからは私がみんなを支えられるように頑張っていきたいです。
- HM(女)何言おうか全然考えてなかったんですけど、この時間、発表できた子は頑張れる子だと思います。
- NT(男)3年E組の授業を見ていて、S君がたくさん発表していたので、僕も頑張って発表していきたいです。
- NN(男)全体学習は自分の心の底にあるものをはき出すところだから、これからもどんどん発表して、自分の思っていることを語っていきたいです。
- KF(女)3BでさっきYさんが言っていたように、O君のことについて話し合ったんですけど、私は、昨日気付いたことがありました。私はこういうふうに、みんなが発表して、授業の中では緊張少しはするけど、本音をぶつけあうことができ、結構発表とかも平気でできるんですけど、たとえば家では両親がどっちかって言ったら差別的な考えを持っていて、その考えにいつも間違ってると思ってて、間違ってるとは言えるんですけど、そこからさきに、どうしても進むことができなくて、実際の問題になればいつも勇気がでてこない。昨日もO君のことで授業してたときも、みんなO君の言ったことについて発表とかして、実際現実の問題になったら自分の考えがはっきり言えなくて、逃げてるっていうか、勇気がでなくて、だからこれからはみんなの前で現実の問題になっても闘っていけるように、ここで本音を言う。同和問題学習の授業の中で本音を言って、実際に差別に出会ったときに負けないように

頑張っていきたいです。

KM(女) さっきRさんが発表していたけど、発表する前はすごくふるえていて、怖いって言っていました。ふるえてまで発表するのはすごいですって思いました。自分の意見が発表できるように頑張っていきたいです。

IU(女) 私は、さっきNさんとかAさんとかが言っていたように、1年のとき、すごい意見が言いやすかったんだけど、自分の綺麗事ばかり言っていたからだと思います。2年のときだったか忘れたけど、同和問題学習するのが嫌なときがありました。でもそれは、私が誰かのために言ってあげようとかそんなこと思っていたから、すごい嫌と思っていたんだと思います。私は誰かのために、支えるために言うんでなくて、私はまず自分自身のために自分の本音を言っていきたいです。

MM(女) これで私何回か発表しているんですけど、私はここでこうやって発表しているのは、他人のためでも誰のためでもありません。自分のためです。それだけ言いたかったです。

YU(女) さっきYさんが実際の生活に何も生かしてないっていうのを聞いて、すごいドキドキしました。偉そうに言ってるけど、普段、私、今までもYさんのこと傷つけてきたかもしれん・  
・  
・

KD(男) さっきから3Bの子が、いっぱい自分の思いを言ってるけど、昨日、話をしている、O君のこと聞いて、男子は全員発表した訳ではないけど、O君が悩んでいるように3Bの男子はみんな、悩んでいるように僕には見えました。みんながO君のことで悩んだっていうのは、O君のことをみんな友だちとと思っているからだと思います。僕もO君のことを今まで、いい仲間だと思っていました。でも、相談ごとをしたことはありませんでした。だから、僕は友だちの一人としてO君にも、クラスの全員にも悩みを打ち明けたいです。

OK(男) 昨日、K君のことで話し合っ、昨日はK君のために話し合ったけど、K君のためじゃなくて、自分のためにこれから自分の意見を言おうと思います。

YH(女) Aさん、私、Aさんのことを言っているのではないよ。誤解しないよ。Aさんもっと自信持っていていいから。すごい私はすばらしい子だと思っている。

AK(女) さっき私が傷つけたかもしれんって言ってたけど、私はもともと性格がこうだから、あまり傷ついてないし、それで、いつもみんなと楽しくいるだけだから、そんなに気にしないで。みんなでいつも一緒に頑張っていこう。

MK(女) 昨日、O君のことで話している、そして、3B全員が信じれないみたいで、悲しくなって、女子とか、昨日いっぱい言ってくれて、でも男子は全員がなかなか言えなくて、そして、少数の子しか言えなくて、今度からみんなが言えるように頑張っていきたいです。

SN(女) この前、O君がB組のことで相談してくれました。一定の子しか、発表してくれないし、先生に相談しても真剣になんてくれないって相談してくれました。やっぱり、一人つきり程心細いことないし、みんなちゃんと考えてほしいと思いました。

TK(女) クラスの話合いのことで、2学期は1学期に比べてすごい重い空気が流れていて、自分もそれにまかれていて、差別に対する怒りが鈍感になっていて、1学期みたいに思いが広がらないようになっていて、2学期はもっと1学期のように思いを広げられるように頑張りたいと思います。

MK(男) O君の話を聞いて、人が信じられないって聞いて、僕はO君とも話している、大切な友だちだからO君一人にしたくないから、信じられる友だちになるために発表しました。それで、さっきYさんとか言ってたことで、生活に生かしていくっていうことで、この部落問題とかかして、この体育館で友だち関係のこととかいっぱい話がでて、部落問題のことだけでな

くて、友だち関係とか、人間のこと、人間そのもののことについて話できるっていうのが全体学習のすばらしいことと思います。

YN(女) 今まで本当のことがあまり言えなくて、嘘のようなことばかり自分の心も隠して言ってしまうて、Aさんがさっき言ってくれたように、3年になって、本当のことを言うのがどれ程大変なことか、自分でも少しずつわかってきたような気がするけど、まだまだ3Cでも全体学習をしたときに比べて、燃えていたものが灰みたいになって、自分でも発表する熱が薄れてきたような気がするから、これから、もっとみんなで頑張っって、発表するようにしていきたいです。

IS(女) 私、あまり意見言えなくて、みんなの前では何かごまかしてきたんだけど、今は助けてくれる人、支えてくれる人がいるから意見言えるけど、高校へ行ったら一人になってしまうから、重たい雰囲気の中でも言えるような力をつけていきたいです。

T : 本当にそれを身につけていってほしいです。この資料はそれを教えているんでないですか。

TJ(女) 最後のほうになってみんなに問題だすようで、悪いんだけど、B組の子の意見聞いて、前の全体学習のときに、私はとなりにいる仲間を信じるって言って、強制的に言ったようになっていりらしくて、思いやりを持って言ったらいいんだけど、思いやりってどういうことかっていうのが自分でもまだ分からないよ。みんなに今言っって言っっても、時間もあまりないし、みんなはどういうことかわかっていると思うけど、私は思いやりっていうのは、あのときはあれでよかったって思っている。私には思いやりの意味がまだよくわからない。

HM(女) さっきO君が夢も努力しないとかえられないと言っってたけど、この問題も、やっぱり努力しなければ解決しないと思います。夢もこの問題も自分が勝ち取るっっていう勇気と一途な気持ちがあれば、絶対なくなると思うから、私自身も頑張っっていくし、クラスのみんも頑張っってくれているから、クラスで今消えかけている火を燃やしていきたいと思います。

KH(女) 3EのK君が言っっていたことだけど、支えてくれる人がいなくても、一人一人頑張っって生きていかなければいけないっってことですが、私はそんな生き方はできない。支えてくれる人がいなかったらなかなか発表できないし、支えてくれる人がいても、まだなかなか発表できないから、高校になったらみんなと別れるかもしれないし、それで、意見が言えないっっていうのもいやだから、これから、一人でも頑張っっていけるようにしたいです。

KO(男) この前も自分自身のために部落問題学習しているっって言っってたけど、今も自分自身のためにやっている。自分自身の信じるもののために、一生懸命頑張れたらいいなって、いつも思う。何も信じれなくなったら、人間は生きるのも本当におもしろくなるし、学校に来るのもしんどくなっってくる。正直言っって今、僕は学校に来たくないんだけど・・・それで、学校に来たら友だちがいる。信じれる仲間が何人もいる。だからどんなことあっっても、嫌なことがあっっても学校に来ている。

MM(女) 初めの方でHさんが、全体学習するのが嫌だっって言っってたんだけど、私も、まだそう思っっているんだけど、言わなければいかんっって思う心もあるので、これからは本当に言えるように頑張っっていこうと思います。

BY(女) 私は、今まであまり意見を言っっていなかったけど、今日、言えて本当によかったと思っます。それで私は3年間勉強してきて、みんなの意見聞いていたら3年間勉強したのが何だっただらうかなあと思うようになってきました。

AY(女) 3Bのことを私も聞いたんだけど、O君の気持ちが本当の気持ちで、人が信じれないっって聞いて、ショックだっただっって言っってたけど、O君がずっとがまんしていたところがあっって、みんなそういう部分、O君のそういう部分を認めていってもらいたいと思う。B組のみん

- とか、B組の先生にも自分の本当の気持ちっていうのを真剣に受け止めてもらいたいと思う。
- 0A(女) O君の意見を聞いて、少し心が痛んだっていうか、友だちを信じれなくなってもそんなに辛いことはないと思います。私にとって同和問題は自分が部落出身だから真剣に考えているのと違う。もし、自分が部落出身でなくても、こういうふうに真剣に取り組んでいると思う。人の目を気にして意見が言えないっていうのは、すごい悲しい面があるなって思いました。
- AT(男) K君とは、前まで塾が一緒ということもあって本当に大切な友だちだから、そんな友だちなくしたくないから、他にもたくさんいる友だちをなくしたくないから、信じ合える友だちをつくっていきたいと思いました。
- SS(女) 私はO君の発言したようなことがあまり経験にないけど、自分の考えから言ったら、O君はもっと人のことを信じたら信じられると思います。こういうことを言って、みんなの非難をあびるかもしれないけど、頑張っていきたいです。
- KN(女) 私もさっきのHさんと同じように思ったんだけど、やっぱり、信じてもらいたかったら自分から信じていかなければいかんと思う。さっき私が初めの方に部落問題学習は嫌だなあって言った子の意見は信じられんって言ったけど、始めは信じてその人たちの前でいろんなこと言っていたわけだし、だからやっぱり、自分から人を信じていくっていうことがすごい大切だと思う。
- OM(女) 2年生のときにYさんからよく相談されて、1Eとかよく嫌なことがあったら詩に書いて相談してくれたんだけど、私を助けてっていうようなこと、もう学校に来たくないっていうようなことだったんだけど、よく相談にのってあげました。自分もそのことを他人事のよように思っていたので、何か今から思ったら申し訳ないけど、これから、相談されたら真剣に話にのってあげたいなって思っています。
- HY(女) 1、2年生のときとかも、よくYさんをいじめていたと思います。だから、ここであやまらせてください。ごめんなさい。
- SY(女) 25日、私もOさんと南会場の学習会に行っていたんだけど、学習会に初めて行く前までどうしようもない不安でどうしようもなかったんだけど、Kさんが「大丈夫。・・・心配ないから一緒に頑張ろう。」って言ってくれてすごく嬉しかったです。一緒に学習を進めていく中で、私も今まで言えなかった本音を言えるようになったし、学習会から帰るときは、来る前にもっていた不安が、来てよかったなって喜びに変わりました。部落問題学習を今まで友だちのためにやるとか思っていたところがあったけど、これからは、自分のために頑張っていきたいです。
- OM(女) 私も1、2年のときは同和問題学習するのが嫌でした。それで、私たちの年代になったらもう差別している人はいないと思っていて、私たちに同和問題学習をするんだったら、親を集めて親に同和問題学習をさせたらいいと思っていました。でも、3年になって直接的な差別はなくても、私みたいな考えが差別を生んでいるんだなあって思いました。それで私もOさんやKさんと一緒に南会場の学習会に行ってきたんだけど、そのなかで1回しか自分の意見が言えなかったけど、行ってよかったなって思いました。それでMさんが最後に「またよかったら来てほしい。」って言ってくれて、そのことがすごく嬉しかったです。
- SA(男) 1、2年のときは、綺麗事でもなかなか言えなくて、3年生になって学習の中身が深まってきたら、余計に本音とか言えなくなって、自分にとって本音って何だろう、とか思ったけど、そのときわからなくて、今になってみんなの発表とか聞いていて、これが本音なんだなって思いました。
- OK(女) 24日の月曜日に私も学習会に行ってきて、みんなの意見とか聞いていて、すごい話易い場

所だなあって思いました。Kさんも「またこれたら来て。」って言うてくれて、すごく嬉しかったです。いく前に「学習会行く。」って親に言ったら、「行って来てもいいよ。」って言うてくれたけど、「部落問題について話す。」って言ったら、「どうしてそんなつまらない学習をしに行くんだ。」とか言われてすごい腹が立って喧嘩しながら行ったけど、行ってきてすごい私はよかったと思います。親には帰っても怒られたけど、親の考えが間違えているってわかるから、親の考えを、親の気持ちを、間違えていることを直してあげなあかんと思いました。

KM(女)私にとってはこの問題に真剣に取り組み始めたのは6月がスタートだったけど、それで安心してしまってそれから意見が言えなくなっていました。「親と闘う。」と言って話し合うと言っていたけど、まだ私は1回しか話せていません。こういう問題に取り組んでいかなければ、こんなに真剣に取り組んでいるみんなの気持ちを忘れてしまいそうな気がするの、これからはみんなの熱意に応えていきたいです。

FS(女)私もK君から相談受けたことがあるんだけど、そのときちゃかしたりしたので、ここであやまらせてください。ごめんなさい。それで、A君たちとも人権部で一緒だったんだけど、そのときも「来たくない。」って言うてたけど、学校も来たくないと思っていたとは思わなくて、私も何もK君に対してできてないから、私の責任でもあると思いました。

HS(男)僕が言いたいのは、ここで発表してない子はもう差別の加担者のようなものだと思います。部落の人達は被害者のようになっているけど、被害者っていうのは加害者がいて、その加害者になっている人もこの中にはいると思います。ここで発表したらもうそれでいいんだみたいな感じで、その場しのぎでは僕はいけないと思います。ここで発表するのはただの一つの踏み台であって、みんな仲間のいない高校に行ったときとかで本当に頑張れるかどうかだと思います。ここで発表できない人は、親が差別的なことを言っても、気付かなかったり、気付いていても言い返せなかつたり、闘えなかつたりすると思います。今日、最後まで発表できなかった人は、本当に加害者だと思います。部落の人間は被害者みたいだけど、被害者とその被害者に寄り添っていくっていうか、加害者だって頑張っしてほしいと思います。今、ここで1回発表したからといって満足するっていう人もいます。自分の発表は終わったとか、本音を1回言っただけ、1回言ったらいいみたいな考えだったら、それも発表しないのと一緒にだと思っています。僕はここでこうやって発表しても満足はしていません。本当に満足するのは、親とか、きちんと高校行って、きちんと闘えたときだと思います。心の中にも差別はあります。それを浄化していくのが大切です。親のためとかいうのがあるけど、実際は自分のためだと思います。大勢いたら発表できないっていう考えの人も、今まで手を挙げてない人も発表してほしいです。ほかのクラスに信頼できる友がいて、3CのA君とT君にはもう1回発表してほしいです。1回発表して満足しないでください。

TJ(男)みんな、たくさんの方が本当に発表してくれたんだけど、O君の話で、ここにみんな発表してくれた子は本当の友だちだと思います。それをわかってほしいと思います。

KH(女)私も1、2年のときは同和問題学習があるたびにおもしろくないなあとか思っていて、早く終わらないかなあとか思っていたけど、3年生になって、何か同和問題学習を楽しみにしているところもあって、そういう気持ちをもっと深めていきたいと思います。

TY(男)このごろ、自分が同和問題に対して何を考えているのかよくわからないようになってきました。

T(榎村)時間もだいぶ過ぎているんですけど、このことが言いたくて時間もりました。Mさんが思いやりっていうのが分からんって言ったんだけど、私が思う思いやりっていうのは、

一人一人を一人の個人として大事にしていくことだと思います。それで、発表のことになるんだけど、さっき最初のほうでH君が全体学習のために昨日放課後残っていたのではないかって思っていたって言ってたけれども、私は発表っていうのは個人個人がしていくものだから、私達の3Eは、なかなか発表のできないクラスだった。この全体学習も発表しなくて終わってもそれはそれでいいと思っていた。私はいい格好しようとかそういうことは全然思っていないで、本当にこの資料で私は伝えたいことがいっぱいあって、それで、みんなに聞きたいこともいっぱいあって、授業してきたわけだけでも、3Eの子が前の前の授業のときに同和問題学習を頑張っていて続けていって言うていた。だけど、卒業したあとどんなふうに残っているのかってすごい疑問に思っていた。それで昨日の帰りに補習学習の時間だったんだけど、それを少しつぶして、みんなに聞かかけた。そうしたら、最初は本当に発表があまりできなかったのだけど、授業の中にもあったけどK君がその火をつけてくれたっていうか、みんなが本当に思っていることが言えるようになった。それで、涙ながらに発表した子も、それがたまらなくなって発表する子もいた。そういうことを経て今の3Eがあるんだと私は思う。だから、昨日2時間とって、トイレに行きたいのを我慢していたり、塾に行かなければいけないのに行けないって思っていた子もいただろうけども、私はそれはそれでよかったと思う。2時間の授業が終わったあと、みんなが笑顔で家に帰っていたこと、本当にお互いに笑い合っていて授業終わって帰っていたのがすごい嬉しかった。昨日の授業の中でも発表のことが話題になったけど、発表しろ、発表しろだけで終わっていいのだろうか、私は思う。それもK君が言ってくれたんだけど、人それぞれ考えがあるって、本当に苦しみながら考えている子もいるから、無理矢理には発表しなくてもいいと思う。だけど、本当に思っていることがあるのだったら発表していったらいいんじゃないかって、そうK君言うてくれたけど、私もそう思う。それが言えたっていうのはその子の立ち上がりになるんでないかなって思う。それで、私は指導案の中にいろいろと迷いが、私の迷いが書いてある。生徒のみなさん知らないだろうけど。だけど、昨日の授業で私はその迷いの一つがなくなったような気がした。クラスの子の姿を見ていて、本当に本心を語れることによって自分を変えていけることができるんだあって、自分を変えていけて、自分が部落差別に対して闘っていけるんだあって思った。だけど、発表できない子が、発表しようと思ってもできない子がいるでしょう。それで、周りの子はその子たちを責めたらいかんと思う。深く深く考えていってほしいのです。自分の中を見つめていってほしいのです。自分の中の意識を見つめていってほしいのです。そうすれば、いつかは発表できる日が来るんでないかなって思います。豊田先生が言っていることは、私が言ったことにつながるんでないかなあって思います。無理に発表させることが部落差別解消への道じゃなくて、全体学習でもみんなが言ってたけど、本当の心、本当の思いを語ることが部落差別解消への道につながっていくんでないかなと思います。そう思えたのは、昨日の2時間の3Eでの話し合いがあったからです。私は帰ってから興奮してっというか、体が震えていたです。よかったと思います。

卒業生O君：みんな僕のことよく知らないかもしれないけど、僕は部落出身です。僕が部落ってわかったのは小学校3年生で、その意味がよくわからない間に中学校に入学して、僕も同和問題学習の授業が、とてもきらいで、初めの頃はずっと寝てました。それで、ある日、お母さんが昔、自分が部落差別にあった話を聞いて、何か妙に腹が立って、でも、中学校で全体学習しても、それが行動につながらなかって、どうしてだろうって思ったら、自分が部落民っていう自覚があまりなくて、それで、そのときは手を挙げて発表したら自分はすごいっていう意識もっていて、手を挙げる前には言葉つくことで必死で、自分にとっては頭の中で作

文を書いているような授業でした。それで、自分が部落っていう自覚ができたのは、高校に入学して解放奨学金の説明の用紙をもらうときに、みんなに見えないように影で渡される。同和問題ロングホームルームのときは僕だけに気をつけて先生が話しをする。そんなことがあって、なんでそんなことされないかのかなって思った頃からです。中学校のとき、自分をどうにかして成長させようと思っていったけど、自分がその源になれなくて、だから、みんな今、ここ体育館で授業していて、人が、誰かが言うのだったら僕も言おうって思っていたら、高校に入っても絶対流されると思う。だからさっきO君がクラスの中で一人だけでなく、みんなに自分の思いを言ってください。O君が思いを語ることによってみんなを引っ張っていったら、みんなついてくる。ついてこない子は、人間らしくないと思う。それで、僕は次のロングホームの時間に、学校でクラスで部落民宣言をすることになっています。それで、よく友だちに「お前友だちなくすぞ。」って言われるけど、僕は別に気にしてない。友だちがなくなった方が、僕にとっては同和問題に関わって、僕自身の行動が、僕にとってはやりがいがある。どうして部落民宣言をするかっていったら、僕のクラスって、ぜんぜん同和問題に関心もなくって、考えもしてくれへん。だから、僕は部落民宣言するのはみんなにわかってほしいっていうか、みんなを一つにまとめるっていう意味では、僕はしない。ただ、僕が部落って言って、みんながこの問題をどういうふうと考えてくれるかっていうこと、いろいろ、そりゃあ、部落って聞いて意識する子もいるだろうし、一緒に考えてくれる子もいるかもしれないけど、僕はみんなに考えてほしいって意味でします。だから、ここで、みんな学習していて、部落の子だけが高校へ行って頑張らなければいけないっていう訳でないよ。みんな一人一人の問題だから。今、仲間がいっぱいいるから、今、信じなくても自分を信じようって、自分から友だちを信じようって思っていたら、絶対がんばれる。みんな聞いてくれると思います。最後に、高校入ってどうだこうだとか、今、考える必要はない。今を一生懸命に頑張っていたら絶対に高校へつながるから。みんなが原点になったら、高校入っても原点になれると思います。終わります。

T。：ありがとうございます。最後に簡単に2つだけ言わせてください。一つ、信じてことができないう人間に信じるようにしたらいいんだっていう論理は、差別されている人に、お前が頑張れって言っているんでないかなって、ふと思いました。もし機会あればクラスで話し合ってみてください。それともう一点、支える、支えられるっていうことを言ってますけども、支えられたことがあるっていう人は、支えるっていうときに自分がふらふらしていたんでは、支えられんですよ。自分の足でしっかり立っていなかったら支えられんよね。支えられて、その次に人を支えるその瞬間に、自分の足でしっかりと立つ場面っていうのが必要なんじゃないかと思います。その瞬間を踏まなかったら、人は絶対、支えられないと思います。まだまだ、言いたいことはあります。まだ、発表がたまっている部分もあるし、深く話し合えなかった部分もあると思います。それは自分のクラスに帰ってしっかりと話し合いをしてください。その話し合いをするってことが大切なんだと思います。それをまた今度、11月の全体学習の、最後の全体学習の日に持ち寄って、しっかりと話し合おうじゃありませんか。熟成させていってください。終わります。